地域公共交通のあり方について
―兵庫県朝来市を走る JR 播但線の利用促進を例に―

朝来市地域公共交通ワークショップの様子

#地域公共交通
#JR播但線
#利用促進

＼ DATA ／

- **主な連携先・メンバー**
  朝来市企画総務部総合政策課　足立智義氏
- **活動地域**
  JR 播但線 寺前駅～和田山駅間
- **活動期間**
  2023 年度～継続中
- **活動資金**
  なし

目　的

兵庫県朝来市を走る JR 播但線は、利用者減少により経営状態が圧迫され継続が困難な状況にある。そのため、播但線の利用促進について検討を行う。

連携にいたる経緯

ゼミ生主体で実施する公募論文コンテストにて「JR 播但線の利用促進」を研究テーマに設定し、朝来市に相談したところ、朝来市主催の「令和５年度朝来市地域公共交通ワークショップ」への参加を勧めて頂いた。

活動内容

2023 年７月に「令和５年度朝来市地域公共交通ワークショップ」に参加した。このワークショップは、朝来市民から公共交通に対する意見や要望を聞き、市の新たな公共交通体系の確立に向けた方針決定を行うことを目的に毎年開催されている。私たちは、播但線の沿線自治体である朝来市民のみなさんと膝を突き合わせながら、公共交通の問題点と改善策について意見交換を行い、大変有意義なワークショップを行うことができた。

2023 年９月にはワークショップや沿線の視察で得たことを踏まえ、地元の高校生を対象に播但線促進に関するアンケート調査を実施した。調査では、将来の朝来市を担う若い世代の声を多数集めることができたため、結果を取りまとめ利用促進の提言を行っていく。

2023 年 11 月には朝来市より依頼のあった播但線の電化工事に関する検討を行った。この内容が将来における播但線のあり方を検討する上での一助になれば幸いである。

生野駅前のバス停

旧和田山機関庫（和田山駅）

和田山駅

活動の成果

- 地元住民との意見交換。
- 若い世代の声を反映させた利用促進策の提言。
- 播但線の電化工事に関する検討結果の取りまとめ。

今後の課題・目標・展開の可能性

- 交通・観光連携型事業による観光産業の再生・高付加価値化（観光協会等）。
- 交通連合（運輸連合）による地域交通の活性化（鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者等）。

＼ 連携先からの一言 ／

我が国では、人口減少社会となり地方の公共交通の担い手不足が大きな社会問題になっています。今後も大学生ならではの若い視点で、鉄道やバスなどの公共交通問題を研究テーマとして取り上げてもらえれば幸いです。

（朝来市企画総務部総合政策課　足立智義氏）

社会安全学部 教授　吉田　裕 Yoshida Yutaka

1995 年、西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）に入社。2006 年より同社安全研究所の研究員となり、災害心理や社会心理を研究。2023 年より関西大学社会安全学部の教員となる。